

# 長谷さんさん便り

vol.5 2024.3

- 発行：南アルプス山麓地域振興プロジェクト推進協議会（愛称：長谷さんさん協議会）
- 問合せ：南アルプス山麓地域振興プロジェクト推進協議会事務局  
TEL：080-3171-8233  
E-mail：hase33organic@gmail.com
- 編集・制作：南アルプス山麓地域振興プロジェクト推進協議会



長谷フェス～南アルプスふるさと祭り～

## 協議会5年目の活動

長谷さんさん協議会（正式名称：南アルプス山麓地域振興プロジェクト推進協議会）は、長谷地域の農業振興を目的として給食・6次産業化・地域農業・ツアー・長谷みらい米づくりの5つのワーキングチームで活動している団体です。設立5年目を迎え、今年も地域の皆さんに長谷さんさん協議会の活動や協議会員の取り組みを少しでも知ってもらいたいと思い本紙を発行します。

### 地域を支える集落営農

今号の特集は集落営農を取り上げました。長谷地域の美しい農村風景。これを形づくっている大きな要素は山、美和湖、そして田畑です。田畑が荒れると、のどかな景色すら守れなくなる可能性があります。

農業から離れていると気づかない、農業を営み、ひいてはこの景観を守っている人たちがいます。そして、その人たちの高齢化が今課題になっています。地域の景観がどうやって守られているのか、ぜひ知ってもらいたいと思います。2面では集落営農と交付金、営農組合の活動について触れています。【関連記事2面】

### 長谷みらい米づくりプロジェクトの新たな挑戦

農業・化学肥料不使用の米づくりに挑戦している長谷みらい米づくりプロジェクトでは、今年度新たな取り組みとして、技術向上のためNPO法人民間稲作研究所の講師を招き有機稲作勉強会を実施しました。3面では勉強会の様子をお伝えします。また、今年度も家族コース、団体コースの募集をし、米づくりと田んぼ体験の受け入れを行いました。今年度は特に伊那市内の企業の参加が2社から5社に増え、それに伴い協力者・生産圃場も少し増えました。地域農業を支える形の可能性が見えてきたような気がします。3面では参加企業の皆さんと行った報告会「農商工連携の力で美味しく・楽しい地域づくりを目指す 伊那市長谷米と酒造りプロジェクト報告会」について記載しています。【関連記事3面】

### 長谷さんさん農園の役割

長谷さんさん農園は、長谷公民館前を中心に約30アールの畑で共同管理の畑と市民農園を運営しています。農業・化学肥料を使わない栽培方法で、今年5年目を迎えました。今年度は信州大学農学部西条恵汰さんが、移住者による家庭菜園の実現と継続について当園を題材に調査しまとめてくれ

ました。また信州大学農学部助教小林みずき先生が当園及び協議会のことを研究で取り上げてくれました。4面ではそれらの研究内容を要約し長谷さんさん農園が移住者にとってどんな役割を担っているのか、またこれらの課題を記載しています。【関連記事4・5面】

### 6年目 雨の長谷クリスマス

令和5年12月17日、道の駅南アルプスむら長谷で長谷クリスマスが行われました。当協議会も長谷クリスマスの協力団体となっています。当日はあいにくの雨でイベントの時間が短縮されましたが、17時には点灯式も行われ、子どもたちも嬉しそうにいました。当日の様子を5面で記載しています。【関連記事5面】

### 協議会員の活動

6面では長谷中学校・山おやつ・ワッカアグリ・都市農村交流・麦わら帽子の会など、協議会員の活動を取り上げています。新しい取り組みも始まっているのでぜひ覗いてみてください。【関連記事6面】

### 4年ぶり、長谷フェス開催

令和5年11月5日（日）、道の駅南アルプスむら長谷と南アルプス公園で「長谷フェス〜南アルプスふるさと祭り〜」が同実行委員会主催で開催され、約2500人が来場する賑やかなイベントとなりました。旧長谷村の頃から長谷地区最大のイベントとして行われてきた「南アルプスふるさと祭り」。コロナ禍で中止が続いていましたが、4年ぶりに名称・内容を新たにし、長谷さんさん協議会も実行委員の一員として企画運営に携わりました。7面では長谷フェス当日の様子を出店者の声とともに掲載しています。【関連記事7面】

### 新店舗続々！長谷に新たな風

長谷地域で新しく開店準備中のお店が複数あります。過疎化・高齢化で商店も閉店していった長谷地域で、今までは違う風が吹いてきているのを感じます。8面では、長谷の新店舗情報と地域おこし協力隊の宮川沙加さんの卒業に向けての記事を掲載しています。【関連記事8面】

### 農ある暮らしをするなら長谷

コロナ禍後、長谷への移住者は毎年増えています。長谷は「農ある暮らし」というライフスタイルを実現できる場所。外から来る人もすでにいる人たちも、農に親しみ農とともに暮らすの豊かさを、より享受できるような地域になっていけばいいと思います。

編集部 長谷さんさん協議会  
宮川沙加(伊那市地域おこし協力隊)  
羽場友理枝(伊那市集落支援員)

取材協力 伊那市長谷総合支所、溝口営農組合、長谷みらい米づくりプロジェクト、長谷さんさん農園、西条恵汰、小林みずき、長谷クリスマス実行委員会、長谷中学校、農業法人Wakka Agri、麦わら帽子の会、池上直彦、ざんざ亭、トカラのおうち、たびするはさみ、みさとはん、ナチュラル・ワーク&ランの会、長谷おばあちゃんの会、ちゃるら、美和食堂、ニール、長谷部晃、加藤恵(順不同、敬称略)

# 地域を支える集落営農

長谷地域の美しい農村風景。これを形づくっている大きな要素は山、美和湖、そして田畑です。田畑が荒れると、この景色も守れなくなる可能性があります。農業から離れていると気づかない、農業を営み、ひいてはこの景観を守っている人たちがいます。そして、その人たちの高齢化が今課題になっています。地域の景観がどうやって守られているのか、ぜひ知ってもらいたいと思い、ここでは集落営農と交付金、営農組合の活動について触れます。

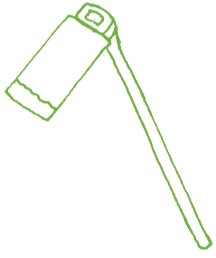
## 集落営農とは

「集落営農」とは、農林水産省によると複数の個人が集まって、機械の共同利用、作業の共同化により経営の効率化を図る取り組みです。農村の高齢化や担い手不足に対して、地域農業・農村の維持・発展に集落営農という選択肢があるとしています。広範囲にわたる定義で、農事組合法人や株式会社も含まれます。

地域社会の維持や地域の担い手不足をきっかけとして始まった集落営農は、平成19年に「担い手経営安定新法」の制定により法人化に向けた動きも促され平成20年にはその動きも落ち着いてきました。当初は高齢化や担い手不足への対応から始まりましたが、現在はその担い手自身が高齢化し、後継者不足に直面している地域が多くあります。

## 中山間地域等 直接支払制度とは

農業生産条件の不利な中山間地域等において、集落等を単位に、農用地を維持・管理していくための取決め（協定）を締結し、それにしたがって農業生産活動等を行う場合に、面積に応じて一定額を交付する仕組みです。農業生産活動を継続するための活動、体制整備のための前向きな活動に対して集落協定に交付されます。



今回お話を聞いた  
溝口営農組合の皆さん。  
右から2番目が  
代表の羽場政光さん

## 溝口営農組合に聞きました 長谷地域の集落営農 溝口の場合…

### 集落営農が始まったきっかけ

平成10年頃から長谷全域で基盤整備※1が行われ始めました。農地の担い手不足が少し見えてきたかどうかという時期に、機械の導入がしやすいように小さい田んぼを集約し、形を整えました。

「農地を集約したが、先祖から受け継いだ土地が尊くて手放せない人が多かったから、本当に大変だった」と溝口営農組合代表の羽場政光さんは当時を振り返ります。準備から完成まで約12年の月日を費やしたそうです。

平成13年には長谷村が各集落に1台ずつコンバインを与え、その時期に各集落で営農組織が立ち上がりました。平成12年より農林水産省から始まった中山間地域等直接支払交付金の受け入れ団体としてそれらの集落協定が窓口になっていきました。

### 溝口営農組合の活動



ラジコン草刈機「神刈」。草刈りの救世主になっている

溝口には農地に関わる取り組みとして美和土地改良区と溝口水利組合、溝口営農組合などがあります。溝口の中山間地域等直接支払の窓口となっている集落協定は溝口営農組合です。

溝口営農組合では水稻の苗づくり、田植え、収穫、乾燥、草刈りなどの田んぼに関わる委託業務を受けたり、農道整備のため年に数回の一斉草刈り、獣害対策の柵のメンテナンスなどを行なっています。特に収穫・乾燥については、ブレンドではなく、それぞれが自分の家の米を食べられるよう、地域の農家に寄り添っているのが溝口営農組合のこだわりです。

溝口では中山間地域等直接支払を対象農地の管理者への個人配分と共同取組に使用しており、共同取組分は乾燥機、コンバインなどの大型機械の購入や修理、作業員の人件費などに使っています。令和4年度にはラジコン草刈機「神刈」を導入しました。傾斜45度の畔まで使用できるこの機械は、人が行う3倍以上の速さ



育苗作業の様子

### 営農組合の課題

草刈りと高齢化は営農組合にとって大きな課題です。基盤整備によって田んぼの畦が大きく急傾斜になったことも草刈りが大変になっている要因の一つです。草刈りが適切に行われないと畦の土が堆肥化して柔らかくなり、崩れる恐れもあります。そのため中山間地域等直接支払いでも適切な畦草管理がされているかが確認項目として入っています。

高齢化も大きな課題です。溝口では農地所有者は全員営農組合に入ることになっています。以前は「長男は百姓を継ぐ」という流れがありましたが、今はそれも減ってきたため、新しい担い手が少ない状況が続いています。今の営農組合は70〜80代の人が主力を担っています。定年後に参加した人たちが多く、定年が引き上げられていく様子も営農組合存続の不安を煽っています。



農地の意向調査を地図に記載していく

「交付金対象農地の地主に意向調査を行ったところ、農地を増やしたいという人が少しいて、とても気が楽になったが、まだまだ自分たちだけでは10年後が見えないし、新しい人たちが入ってきてほしい」と羽場政光さんは話します。機械のオペレーターや作業の手伝い、草刈りなど、農地を持たなくとも関わるところはたくさんあります。興味のある方はお近くの営農組合に聞いてみてください。

※1農業生産にとって最も基礎的な資源である農地や農業用水を、良好な営農条件を備えたものに整備すること

農業・化学肥料不使用の米づくりに挑戦している長谷みらい米づくりプロジェクトでは、より農業技術を向上するため、伊那市農林部農政課後援を受け、NPO法人民間稲作研究所の技術指導を受ける有機稲作勉強会を開催することになりました。ここでは勉強会の様子をお伝えします。

有機栽培稲作の技術習得に向けて

長谷みらい米づくりプロジェクトでは有機栽培稲作の技術習得に向けて、栃木県のNPO法人民間稲作研究所から講師を招き、年4回伊那市長谷で講義と実地研修を行います。

いくと思います。5月18日には館野廣幸理事長にご指導いただき、田植えと代かきを学びました。

NPO法人民間稲作研究所は、30年前から無農薬・有機稲作を探究してきた団体で、理事の中には約15ヘクタールの水田を有機栽培で管理している方もいます。

自然環境に配慮した米づくりをしながら効率的な作業ができれば、今まで作業工程の大変さから選べなかった有機栽培を行うことも現実的になって

1年を通して各自の圃場でも試し、深水で抑草する時期と、深水を止めて稲の生育を促す時期の見極めなども重要なことがわかってきました。参加した12名の農業者からは今年

度、成功と失敗それぞれの結果が報告されました。来年度からは主催が伊那市に移り、引き続きこの勉強会が行われる予定です。



農商工連携の力で美味しく・楽しい地域づくりを目指す 伊那市長谷 米と酒造りプロジェクト報告会

農業・化学肥料不使用の米づくりに挑戦している長谷みらい米づくりプロジェクトでは、今年度も家族コース、団体コースの募集をし、米づくりと田んぼ体験の受け入れを行いました。今年度は特に伊那市内の企業の参加が2社から5社に増え、それに伴い協力者・生産圃場も少し増えました。

2年目の参加となる株式会社フォレストコーポレーションでは、顧客を招いた田んぼ体験が年間通して行われ、田んぼの生き物勉強会や田の草の勉強会なども実施しました。昨年に引き続き、コシヒカリの日本酒づくりも行いました。地域農業を企業が支える形の可能性が見えてきたような気がします。ここでは、協力企業の方々と行なった新米・新酒の試食・試飲会の内容をお届けします。

プロジェクト報告会

令和6年2月1日、産業と若者が息づく拠点施設アルラにて「農商工連携の力で美味しく・楽しい地域づくりを目指す 伊那市長谷米と酒造りプロジェクト報告会」を開催しました。会場には、当プロジェクトの生産者、酒を醸造した宮島酒店、協力企業合わせて15名が一同に会し、試食や試飲をしながら、今年度の米づくりや酒について話しました。

生産者で長谷みらい米づくりプロジェクトメンバーの中山幾雄さんは、現在の米づくりを取り巻く環境や米の価格の厳しさなどを話した上で、企業の協力があることで中山間地でも米づくりを続けていこうと思える一つのきっかけになっていると話しました。また、今年の米づくりの気候や工夫した点、課題なども写真を見せながら報告しました。

醸造した宮島酒店の宮島敏さんは、ある農家に「せっかく丹精込めて米を作っても、いい酒を作るにはほとんど削ってしまふのはもったいない」と言われた話をし、今回の日本酒は、9%だけ削り精米歩合91%で作ったことを話しました。酒米ではなくコシヒカリで作った酒ですが豊かな味わいと穏やかな香りで、宮島さんは精米歩合91%の酒には飯米も合うのかもしれないと可能性を感じています。

報告会の様子



田植え作業



田んぼの生き物勉強会



参加企業の皆さんより

株式会社テク・ミサワ

弊社は自動車部品を作っており、SDGs推進企業でもあります。農商工連携は以前から考えていましたが何をしたらいいかなと考えていたところこの話を聞き、米を食べたり、酒を飲むことなら応援できそうだと思います。

松井自動車工業株式会社

今年から参加し、米をお客様への特典として渡しましたが美味しいと好評でした。安心・安全の食べ物を目の届く場所で作り、手にできるということはとても貴重な価値だと思います。

株式会社フォレストコーポレーション

弊社は建設業を行っており、家を建てるお客様には農ある暮らしへ憧れを持つ方が少なからずいます。今年からは田んぼの作業に社員や顧客も参加しました。自分たちが携わった米でできた酒が手元に届くことに、なんとも言えない嬉しさを感じています。昨年はできた酒の美味しさに驚き、世界の品評会にも2カ所出品し入賞しました。2年目はまた異なる味わいがあり、時間の経過とともに日本酒の味が変わっていく変化をみるのも本当に興味深く楽しいです。

株式会社小松総合印刷

SDGsについて印刷業界から何が出来るかを常々考え、業務を行ってきました。伊那谷でも環境保全に加わりたと思っていて、このような機会があり参加しました。微力ながら参加できて良かったです。

株式会社中央飯金

建設業をしている会社です。以前は社内に兼業農家の社員が多くいて、社員同士もお互いに協力していました。今はそうした社員も減っています。せっかく目の前に土地があるのに都会と同じように働いているだけでいいのかなと思っていました。2年前からこのプロジェクトで田んぼを借り、実際に田植えなどに参加すると、以前感じたことのある自然のなかの清々しい気持ちを思い出しました。今後は社員にも周知し兼業に戻れる人を作っていけたらと思っています。



長谷さんさん農園は、長谷公民館前を中心に約30アールの畑で共同管理の畑と市民農園を運営しています。農薬・化学肥料を使わない栽培方法で、今年5年目を迎えました。

有機栽培・自然栽培は、5年・10年でどんなやり方でも続けているとそのやり方に合うよう微生物が整い、うまくいき始めるといった話を聞くことがあります。当園の公民館前の畑も西箕輪の有機栽培農家草間舎の瀧沢さんから教わった土づくりで5年が経ち、会員の皆さんとも、土の色や柔らかさなど変化を実感しています。

失敗は毎年何かしらありますが、今年はナスなど果菜類の色がとも良く、土の中で何が起きているのかなど興味深く思っています。毎年違う天候の変化に対応できるように、周りの農家さんにもお知恵をいただきながら頑張っていきたいと思っています。

## 信州大学4年生の研究結果

信州大学農学部の西条恵汰さんが、移住者による家庭菜園の実現と継続について長谷さんさん農園を題材に調査しまとめてくれました。



近年、特にコロナ禍を契機に家庭菜園の需要が大きくなっており、農地の担い手として家庭菜園に取り組む移住者が期待されています。その一方で、家庭菜園への取り組みに対する支援については目が向けられていません。西条さんの調査では、長谷さんさん農園に参加している移住者がどのような意向を持ち移住を決め、移住後どのようにして家庭菜園を実現していったかを明らかにし、田舎暮らしを目指す移住希望者への支援のあり方について検討しています。

特に空き家確保が課題の地域では、会員制農園などすぐに畑に触れられる場があることは、菜園をしたい移住者の希望に沿っています。家庭菜園を継続する点でも長谷さんさん農園のような家庭菜園に関心を持つ人同士の交流がモチベーション向上につながっていることがわかりました。

研究の中で、長谷さんさん農園は移住者にとって①菜園の場の提供②栽培に関する不安や悩みの解消③家庭菜園志向を持つ会員との交流の三つの役割を担っているといえます。

長谷さんさん農園の継続性については、ずっと悩み続けている課題です。しかし、今回の研究や信州大学の小林みずき助教による研究から、移住支援に力を入れている伊那市のような地域においての必要性を感じ、今後を模索していきたいと思いました。



## 信大生にインタビュー

1年間長谷さんさん農園の活動に参加し、調査をしていた信州大学農学部の西条恵汰さんに、参加した感想を聞いてみました。

参加してみて、農作業の体験も、会員の皆さんとの交流も楽しかったです。大学で一人暮らしを始めましたが、地域のコミュニティと関わる機会は少なく、他世代の方と関わりお話しできたことが嬉しく、お子さんたちと遊ぶ時間もとても癒されました。

皆さんと話すなかで都会の人の「農」需要を知って驚き、移住者が地域の農業にどう関わっていくかに関心を持ちました。さんさん農園での活動と、農業法人 Wakka Agri で草刈りのアルバイトをしたことで、より農業に興味を持ちましたし、草刈りのスキルを手に入れました。

農に関心を持つようになり周りを見ると、実家にも祖父母の田畑があって、耕作できず人に貸していることを知りました。畑の規模や農機具の有無で何ができるか少しわかってきたので、いずれは実家でもやってみたいと思っています。

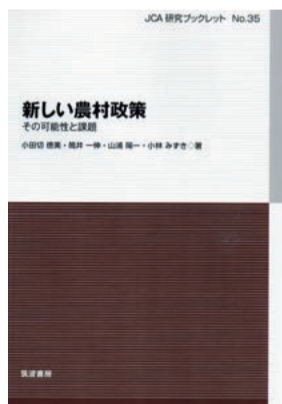
農園の居心地が良かったので、仕事の様子を見てですが来年からは会員として岡谷市から通えたらなと思っています。研究にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

信州大学農学部  
西条恵汰さん



## 長谷さんさん協議会の活動が取り上げられました！ 新しい農村政策—その可能性と課題

筑波書房 小田切徳美・筒井一伸・山浦陽一・小林みずき著



令和2年に閣議決定された「新しい農村政策」は①所得と雇用機会の確保（しごと）②農村に人が住み続けるための条件整備（くらし）③農村における新たな活力の創出（活力）これら「三つの柱」の一体的展開を「総合化」とし地域政策の総合化を打ち出しました。この本は「新しい農村政策」の現場からの検証をテーマとしています。

「三つの柱」の活力づくりに関わる事例として信州大学小林みずき助教が、長谷さんさん農園及び長谷さんさん協議会の活動を取り上げています。「農的関係人口と『関係住民』—活力づくりの課題—」の題で書かれた本文では、農村地域の活力創出において「農的関係人口の創出・拡大」が人口減少に伴う様々な問題の打開策として注目されていることを挙げたうえで、農的関係人口づくりを進めていくほど、関係住民の必要性が高まることを当協議会の活動から解説します。地域内の住民を「関係住民」へ変えていくためには、農村住民が生活の中で農を営むことを目指し、農や食の技術や知識を習得しようとする「農活」が重要としています。「農業者の育成」や「農家の支援」とは異なり農村住民の「農活」の必要性と難しさに理解を深め乗り越えていく方法を社会全体で検討していくことが求められていることを示唆しています。



## 出張！長谷さんさん農園 福岡視察

信州大学と長谷さんさん農園の共同研究の一環として、5月に福岡県のアグリゾート（北九州市）、久山ファーム体験農園（久山町）、糸島ダーチャ農園（糸島市）、シェア畑ららぽーと福岡（福岡市）、ABURAYAMA FUKUOKAシェア畑（福岡市）の視察に行きました。

福岡県は全国体験農園協会発足の前身の県で、体験農園が多く所在します。視察した農園も4件中2件は100区画貸し出す大規模な体験農園でした。福岡県で体験農園と呼ばれるものの多くは、1畝、もしくは1畳分ほどの区画を1区画として貸し、同じサイズの見本の区画で管理者が作付け図を作り栽培し、それをもとに月1回程度の講習を行い、会員は自分の区画を同じように管理する形を指します。価格は年間5万円〜13万円ほど。それぞれ運営主体が異なっていました。どこも近接する地域が人口数十万人規模の都市で、その影響が価格帯に現れているのを感じました。どの農園も食糧難への危機感・コロナの影響などから、3〜4年前に立ち上げた



ABURAYAMA FUKUOKA シェア畑

り会員数が増加したりしてしました。アグリゾートでは長谷さんさん農園と似たような形で、会員制の共同管理の畑を行っており、会員数は個人100世帯、企業20件ほどで5反歩の畑を管理していました。アプリで会員の畑への入退や野菜・作業の管理をしており、会員がいつ行っても作業ができる体制づくりが成されています。条件が違うため、全てを真似することはできませんが、今後の長谷さんさん農園の運営の参考にしていきたいと思えます。



アグリゾート



## 6年目 雨の長谷クリスマス Hase Xmas 2023

令和5年12月17日、道の駅南アルプスむら長谷で長谷クリスマスが行われました。当日はあいにくの雨でイベントの時間が短縮されましたが、17時には点灯式も行われ、子どもたちも嬉しそうにしていました。

当日の様子は  
こちら



このイベントは冬の長谷を盛り上げようと、伊那市の地域おこし協力隊や地元住民で作る長谷クリスマス実行委員会が、平成30年から始め、今年で6年目を迎えました。

今年も11月5日の長谷フェスにも、長谷クリスマスのブースとして「おかもひよっとこ農場」のリースづくり、「みさとはん」の消しゴムハンコを使ったクリスマスカード作りが出版されました。12月17日はステージ発表5件、飲食の出店が6件、ワークショップの出店が3件あり、雨で縮小されたながらも賑やかなイベントとなりました。

今年は、来場者も光の彩の一部として参加してもらいたいという思いから、新たに竹キャンドルを持って立つ演出を加えました。竹は、長谷溝口の中山晶計さんから分けていただき、約200個の竹筒を用意しました。

雨で考えていた演出ができなかったところもありましたが、雨でしか見られない水面に映ったツリーや、傘を通してカラフルな光が溢れる幻想的な光景が見られました。

来年度も少しずつ変化しながら継続していく予定です。地域に浸透しつつある長谷クリスマス、持続的に行うためにも財源確保も課題となってきます。アイデア・応援・一緒に作りたいなど募集中です。何かございましたら長谷クリスマス実行委員会までご連絡ください。



伊那西地区を考える会コラガ 経木オーナメント



竹キャンドルの光がほのかに会場を照らしてくれました



竹キャンドル準備中

### WORKSHOP

- 間伐材オーナメントづくり
- みさとはん クリスマスカードづくり
- 伊那西地区を考える会 経木オーナメントづくり



問い合わせ先  
長谷クリスマス実行委員会 hasexmas@gmail.com

### FOOD

- ざんざ亭 鹿赤ワイン煮とマッシュポテトと鹿ハンバーグ添え
- すずな コロケ・豚汁・梅ドリンク
- 美和食堂 中華ちまき ルーラの会 加工品販売
- Bayside hills coffee コーヒー
- Wakka Agri 玄米甘酒



### STAGE

- ゆかいな仲間たち ギター・ヴォーカル
- イーナちゃんトリオ バイオリン・ピアノ・チェロ
- 糸ぐるまの会 切り絵大型紙芝居
- 長谷小音楽クラブ・中学校音楽部 ハンドベル・合唱
- 長谷トリオ チェロ・フルート・ピアノ



伊那市を抹茶の産地に！  
『ワッカアグリ×お茶屋いちえ』  
長谷中尾で長期プロジェクトが始動！



伊那市長谷中尾で海外輸出向けの高規格米を生産する農業法人Waka Agri.では、伊那市を日本有数の抹茶の産地にしよう！と、同市内に店舗を構える「お茶屋いちえ」とのコラボ企画として、お茶の栽培をスタート。

4月に、長谷小学校・中学校の子どもたちを招いてお茶の木の定植イベントが行われました。中学3年生が二十歳になった時に、植えた茶葉で「お茶屋いちえ」がお茶をたて、それをみんなで味わい、大人の一步を踏み出すことを目標とした長期的なプロジェクト。イベントの日には、子どもがいない中尾集落に元気な声が響きわたり集落の方々も喜んでい



たそうです。一方で苗木の大きさにバラつきがあり、かつ急傾斜地に植えたことから小さい苗木の一部が流れてしまっ

たこと、草取りの期間が大きかったことなど課題もあるといえます。来年度は苗木の育苗期間を長くし大きな苗木を準備することや、マルチを活用することなど改善しながら栽培していくそうです。

他にも、農業法人Waka Agri.では小麦の栽培を始めたほか、同地区でオープンする長谷部晃さんのジビエ料理店の営業サポートや、2019年以降、コロナ禍等で開催を中止していた第2回棚田祭の主催を夏に予定しています。地域を盛り上げるべく、様々なことに取り組みつつ、今後も地域の農業者と連携し、自然栽培・有機稲作技術の向上を達成できる体制を作りたいそうです。

「長谷の太陽」他2種  
ラー油の価格改定

長谷中学校と地域で製造しているお馴染みのラー油「長谷の太陽」の価格が、令和5年10月より変更されました。長谷中学校によると原材料や消耗材・エネルギーコスト等の上昇により、「長谷の太陽」他2種ラー油の製造に関わる原価が上がってしまったとのこと。様々なコスト削減策に取り組みしましたが、学校内の努力で吸収できる限界を超える水準となってしまう、価格改定という苦渋の決断をしたそうです。対象商品：「長谷の太陽」「長谷の新緑」「鹿嶺の頂」(120ml瓶) 販売価格：500円(税込)↓700円(税込)



長谷フェスでふるまい！  
長谷農産物でできたみんなのお菓子  
『山おやつ』

地域おこし協力隊の宮川沙加さんは、長谷の農産物を使用した『山おやつ』を企画。11月に長谷地区で行われた「長谷フェス」南アルプスふるさと祭り」にて限定50食をふるまいました。

試作・製造は長谷に工房を構える『土のうた』が行い、同地区の農家「おかめひよっとこ農場」のタカキビ・シコクビエ・ブルーベリー、「池上敏明さん」のルバーブ、「入野谷在来」のそばの実を使用した自然に溶け込むような、からだにも心にも優しいお菓子ができました。

紅葉真っ盛りの朗らかな空間の中で、来場者からは「素朴な味で美味しい！」「狙っていたのに食べられなかった！」などの声が聞こえてきました。



農業体験を通じた  
都市農村交流

長谷さんさん協議会では、都市農村交流も一つの軸として掲げています。コロナ禍で活動できなかった時期もありましたが、緩やかに交流を始め、令和5年はワーケーションや移住セミナーで農業体験の受け入れを行いました。

ワーケーションとはワークとバケーションを掛け合わせた造語で、旅先で余暇を楽しみながら仕事をする働き方です。伊那市でも受け入れを行っており、その一環として長谷さんさん農園には企業のモニター2組が体験に訪れ、収穫体験を楽しみました。

伊那市地域創造課が主催する移住セミナーでは長谷地区で移住定住を促進する溝口未来プロジェクトと一緒に地区内の案内と長谷さんさん農園で岩魚つかみ取りと野菜の収穫体験を行い、関東圏から3組の家族が参加しました。参加者は農ある暮らしや子育ての環境について思いを持っており、長谷地区への移住も真剣に検討してくれています。こうした農業体験の受け入れを通して、農ある暮らしのニーズと自分たちにとっていつもの風景が人によってはまた違う価値を持つことを、改めて感じました。農の受入体制があることも安心材料になったようなので、今後も、農業に関わる人を増やす活動は続けていきたいと思えます。



顔の見える給食を  
子どもたちに！  
給食に野菜を提供しませんか？

麦わら帽子の会では、「顔の見える給食」を子どもたちに提供することを目標に活動しています。月一回程度の代表者による野菜等の情報交換を行い、調理場からの発注を受け生産者へ連絡し、長谷小・中学校の学校給食に食材を納入しています。

学校給食は、子どもたちが食を通して学ぶ食育の生きた教材ともいわれています。子どもたちの体を作る食材がどうやってできているのか、誰が作っているのか、この地域では何がいつ採れるのか：地産地消の給食は地域と学校を繋ぐ大事な場にもなっています。

学校給食で年間通してよく使われる作物は、ニンジン、タマネギ、キャベツ、ジャガイモです。旬の時期にはキュウリ、トマト、ピーマン、ナス、カボチャ、白菜なども使われます。

昨年、地域の生産者からはタマネギ、赤タマネギ、白菜、大根、サツマイモ、キュウリ、長ネギ、長ニンジン、ゴボウ、長芋、タラの芽、コゴミ、トマト、ミニトマト、切干大根、りんご、大豆、ジャガイモ、ズッキーニ、米が納品されました。

皆さんの畑からも採れるものはありませんか？学校給食への食材提供に関心がある方はぜひ、お気軽に当協議会事務局もしくは長谷学校給食共同調理場に「ご連絡ください」。



# 4年ぶり! 長谷フェス～南アルプスふるさと祭り～開催



令和5年11月5日(日)、道の駅南アルプスむら長谷と南アルプス公園で「長谷フェス～南アルプスふるさと祭り～」が同実行委員会主催で開催され、約2500人が来場する賑やかなイベントとなりました。

旧長谷村の頃から長谷地区最大のイベントとして行われてきた「南アルプスふるさと祭り」。コロナ禍で中止が続いていましたが、4年ぶりに名称・内容を新たに、長谷さんさん協議会も実行委員の一員として企画運営に携わりました。

長谷フェスは3つのエリアで行われ、道の駅エリアでは「長谷の食」をテーマに同地区内の飲食店や生産者が軒を連ね、南アルプス公園エリアでは「子どもが楽しめる体験」をテーマに体験ブースが、歩行者天国エリアには伊那市内のキッチンカーが出店し、来場した人たちは様々な食とワークショップを楽しみました。ステージでは、長谷小学校・中学校、長谷太鼓創龍会、ざんご節保存会の演奏が披露されました。

紅葉が進む長谷の里山に、県内外からたくさんの方々が来場し、地域のあたたかさを感じるイベントとなりました。まさに「地域の力」をみたくに思います。

実行委員長とブース出店された参加者のみなさんにもこっと感想を聞いてきました!

**『ざんご亭』**  
～子鹿の丸焼きのふるまい～

前回までの派手さは無かったが、バラエティ豊かで大盛況だったのではないかな? 今後は市の負担を少なくして地域でまわしていけるような仕組みになっていたら良いなと思う。日程が他のイベントと重なってしまった部分もあるので、他イベントともすり合わせをしてみんなでズラしてやれたら市全体が盛り上がるのでは!?



**『トカラのおうち』**  
～ヤギとのふれあい体験～

天候にも恵まれて、あたたかい雰囲気にも包まれて盛大にできましたね。公園側で、ヤギとのふれあいをしながら、皆さんの様子を眺めて笑みが止まりませんでした!! 企画大成功～!!



**『たびするはさみ』**  
～こどもの憧れ!ヘアカラー体験～

これから長谷に住む立場の中、顔見知りも少ないので、実行委員の方や長谷のお客さんともコミュニケーションをとれる機会になって嬉しかったです。



**『ナチュラル・ウォーク&ラン』**  
～究極の裸足感覚「マンサンダル」作り～

次世代の友達が手伝ってくれて一緒に出店しました。想像以上に人が来てくれ、大人より子どもの反応が良くて、当日にやりきれなかった子たちが2名、後日うちに来て一緒に作ったりしました。同じような志を持つ人たちとも出会うことができ嬉しかったです。今後も他のイベントなどでもやって行けたら良いと思います。

**『みさとはん』**  
～けしゴムはんこのカード制作～

若い世代から年配の方まで参加しているのが良かったし、ブースには長谷の子以外の子たちも来てくれたように思います。とにかく子どもたちが楽しんでいる姿が見れて嬉しかったです。



**『長谷おばあちゃんの会』～干し柿づくり～**  
子どもよりも30代～40代の女性が興味を持って来てくれました。なにより久々に皆でこうやって集まってやれるのが楽しいです。参加してくれた人も喜んでくれて私たちも満足できました。



**長谷保育園とガーランドづくり**

今回のイベントでは長谷の子どもたちが楽しめるようにと、長谷っこお楽しみ抽選会や体験ブースを集めました。地域でイベントを作ればと会場に飾るガーランドの一部を長谷保育園にご協力いただき制作してもらいました。当日は飲食スペースに飾られ、園児の作品がながびくなが、料理のいい匂いと楽しそうな声が溢れていました。



**実行委員長 池上直彦さん**

南アルプスふるさと祭りの始まりは、40年ほど前に遡ります。当初は、不用品になったものを人に譲ろうという長谷溝口で行われていた「ガラクタ市」から始まりました。その後、長谷小学校の催しとなり、「お祭り」へと形を変え、長谷総合グラウンドへと会場が変わり、演歌歌手を招く大規模なお祭りになりました。

今年は4年ぶりの開催で、お祭りの在り方を根本から見直しました。まずは、南アルプスむらを拠点とした会場の変更。このおかげで、お祭り自体がコンパクトになり、準備片付けの負担を軽減でき、継続していきやすくなったと思います。また、例年は地元の人たちが疲弊してしまうこともありましたが、今回は地元の人たちの「やりたい!」が集まり、形になったので、それぞれが充実感を得られたのではないかと考えています。

毎年、同時期に行われていた「ファームはせ食の感謝祭」との合同開催も新たな試みで、スタッフの皆さんや生産者の皆さんも意欲的だったのでとても賑やかな雰囲気になりました。

当日は見込みを上回る来場者がいらしたため、ふるまいの長谷鍋などが午前中で終わってしまう場面もありました。

来年度に活かしたい課題もありましたが、地元のみならず1年に1度集結し、力を合わせることでできる良い機会になったと思います。冬の長谷クリスマスイベントも含めて、連携しながら、変化しながら長谷らしいお祭りにしていくと嬉しく思います。



# NEW OPEN!

## パンちやるら

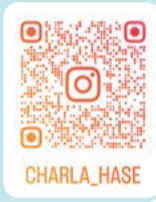


長谷黒河内黒川にパン屋ちやるらが開店しました。Charla(ちやるら)はスペイン語でおしゃべりという意味。その名の通り、自然豊かなこの場所でゆっくり話しながらのんびり過ごしてほしいと古川さんは話します。ご自身で1年かけて改装したという素敵な内装の古民家でパンとコーヒーを味わえます。一番のこだわりは「場所と時間」。市街地からお店に来るまでの往復1時間の景色や時間もゆっくり楽しんでほしいそうです。



滋賀県出身の古川さんは信州大学卒業後、2年前まで化学系の会社で技術職をしており、脱サラしてパン屋を志しました。50代未経験でのパン屋の職探しは難航しましたが、粘り強く探した結果、運よく同じく脱サラしてパン屋を始めた師匠に出会うことができました。師匠は建設業出身だったため、パンだけでなく、古民家の改装もアドバイスをもらえたといいます。

同店で使用する窯は師匠と一緒に建てたもの。窯焼き・自家製酵母は師匠譲り。日本製の方が産地も特定でき品質が安定して使いやすいという理由から国産小麦を使用しています。自然豊かな長谷のパン屋にゆっくりできる時を求めて、遊びに来てください。



場所:伊那市長谷黒河内黒川2187 席数12席  
 駐車場:黒川公民館に車を停めて歩いてお越しください  
 プレオープン:2・3月 水・土 10:00-15:00 本格営業は4月予定  
 詳細はInstagramに順次掲載  
 問い合わせ先:Instagram charla\_hase

任期満了

伊那市地域おこし協力隊

宮川沙加(みやかわ さやか)より

令和2年4月より地域おこし協力隊として活動してきましたが、今年度で卒業となります。あたたかく迎えてくれる地域の方々のおかげで、活動を満了でき、またこの長谷という地に根をおろし、暮らしを営んでいく覚悟ができたように思います。本当にありがとうございました。



1年目はさんさん農園に多く携わらせていただきました。人参の播種に失敗して何度もやり直したり、憧れのビーバーにビクビクしながら草刈りしたり。さんさん農園から見る夕方の美和湖の景色も大好きです。

山菜を採ったり、野花を生けたり、ご近所さんがおかずや作物、レシピなどをお裾分けしてくれたり。日々の暮らしの中で自然の恵みと人のあたたかさを感じられるところが長谷の好きなところです。

私自身のことになりますが、長谷非持山に古民家を購入し、現在は2人の子を持つ親となりました。今後は夫と農業を生業として暮らしていきます。地域で食べ物を作って、地域で子育てをして…昔前には当たり前だった地域で循環する豊かな暮らしができれば良いと考えています。協力隊として学ばせていただいたことを今後も地域へ少しでも還元できるように努めていきたいと思っています。



## niyol (ニーヨル)

長谷溝口の高台に景色抜群の「ドーム型の美容室」がオープン!



夫婦の長年の夢だった自宅兼美容室は、大工さんと協力しながら半セルフビルドで作っています。5才と0才の子育てをしながらの作業は大変な事も多いですが、クラウドファンディングにも挑戦しながら精神的に取り組んでいます。現在は出産前後のお母さんや身体が不自由な方のところへ赴く出張美容もしており、今後も変わらず続けていきます。美和湖を眺めながらヘアケアをして、至福の時間を過ごしませんか?



場所:伊那市長谷溝口3100  
 オープン:4月予定  
 問い合わせ先:オーナー鍛冶紗妃  
 080-3931-1093  
 hairsalon.niyol@gmail.com



## 美和食堂



※イメージ画像

『美味しい!』の笑顔に会いたくて!長年地域に愛されてきた美和食、少しずつ営業を始めています!

ご希望されるお料理の内容・ご予算をお伺いし、地元の旬の食材を中心に、心を込めて調理します。弁当・折り詰め・オードブル・惣菜・オフィス向け昼食弁当・ご会食・飲み会(4名~20名程度・要予約)を受け付けています。

また、貸し食堂としても、様々な方に使っていただけるようにしていきます。ご興味のある方は、ぜひご連絡ください。

場所:伊那市長谷溝口1218  
 オープン:改修の為、本格営業は夏頃の予定  
 問い合わせ先:090-3066-9870(店主 羽場好美)



チラっと予告!  
 美和食堂をお借りして、様々な動きが…

「長谷のだんご屋」オープン!  
 長谷溝口に住む松井博さんがこだわりの生醤油を使って焼き上げただんご屋を5月2日オープン予定

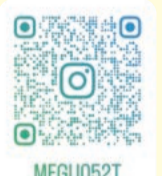
「餃子屋出店!」  
 伊那市地域おこし協力隊の佃夏子さんが美和食堂にて餃子を製造開始!今後イベントなどに来店予定

## 鍼灸治療と養生ができるリトリート施設(仮)



現在、非持山集落の築年数不詳の古民家を改装中。自然の素材を使い自分達で家をリノベーションしています。化学的なものに囲まれていない心地の良い空間で治療や養生、ヒト本来の生き方を見つめなおしてもらえる場所を目指しています。

場所:伊那市長谷非持3509  
 オープン:2025年予定  
 問い合わせ先:Instagram  
 MEGU052T(加藤恵)



## ジビエ料理の食堂「店舗名未定」

ジビエ料理はもちろん、きのこや山菜も店主自ら採って調理する。自然が決めた森の恵みを贅沢にいただける古民家レストラン。木を伐り薪を作り、木の食器までも作る店主、長谷部晃が贅沢なレストランを新たに長谷中尾にオープン!古民家×モダンな空間で薪火グリルで焼いた料理を味わいませんか。日中は、食堂スタイルで定食がメイン、単品料理のアラカルトもあり。夜は、1組限定での要予約となります。昼:11:30~15:00 1,000円~3,000円(予約不要)鹿ラーメン1,000円など 夜:15,000円~(限定1組の予約制)店主渾身の薪火コース料理

場所:伊那市長谷中尾512 プレオープン:3月29日~4月末 昼営業 金・土・日 本格営業:5月から 昼営業 木・金・土・日 問い合わせ先:zanzateihaseyan@gmail.com

